

2022年10月11日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会の代表者による定期会合の開催企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会（ASBJ）と米国財務会計基準審議会（FASB）の代表者は、2022年10月10日と11日に、コネチカット州ノーウォークで定期会合を開催しました。この会合は、高品質でグローバルな会計基準の開発へ向けて連携を深めるために、ASBJとFASBが定期的に行っているもので、今回で31回目となりました。

今回の会合では、ASBJ及びFASBの代表者は、お互いの活動の最新の状況を確認するとともに、両基準設定主体が共通の関心を有している項目である「のれんの会計処理」、「暗号資産の会計処理」並びに「財務報告の境界線」等について議論を行いました。

ASBJとFASBは、引き続き意見交換を続けていく予定であり、次回の会合は2023年の前半に開催する予定です。

川西 安喜ASBJ委員長は次のように述べています。

「私はこの二者間会合に初回から関わってきたが、ASBJの委員長に就任して初めての会合である。今回FASBの新しいオフィスにて、3年ぶりに対面でこの会合を開催できたことを嬉しく思う。これまでの会合と同様、幅広い論点について建設的な議論を行うことができた。今後も継続して議論していきたい。」

リチャード・ジョーンズFASB議長は次のように述べています。

「我々はASBJを新しいオフィスに迎え、2019年以来の対面での会合を開催できたことを嬉しく思う。我々は、暗号資産や金融商品を含む、それぞれの利害関係者により優先事項として識別されたトピックに焦点を当てて議論を行った。ASBJとの年に2回の会合では、基準が世界中の投資家やその他の資金配分者に、より有用な情報を提供し続けることができるかどうかについて貴重な洞察を得ており、次回の会合でもこのような議論を継続していきたい。」

企業会計基準委員会（ASBJ）について

ASBJは、2001年7月に民間部門の機関として設立された。ASBJが開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJは、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJは、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJに関する詳細な情報は、ホームページ (<https://www.asb.or.jp/jp/>) をご参照いただきたい。

米国財務会計基準審議会（FASB）について

FASBは、1973年に設立された、一般に認められた会計原則（GAAP）に従う公開企業、非公開企業及び非営利組織のために財務会計及び財務報告の基準を設定する独立の民間の機関であり、コネチカット州ノーウォークに拠点を置いている。FASBは、米国証券取引委員会（SEC）により、公開企業のための指定された会計基準設定主体として認識されている。FASBの基準は、各州の公認会計士審査会及び米国公認会計士協会（AICPA）を含む、その他の多くの組織により権威のあるものとして認識されている。FASBは、投資家その他の財務報告書の利用者に有用な情報を提供する財務報告を促進することを意図した、透明性があり、誰でも参加できるプロセスを通じて、財務会計の基準を開発し、公表している。米国財務会計財団（FAF）は、FASBの支援及び監督を行う。詳細な情報は、ホームページ (www.fasb.org) をご参照いただきたい。